

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

304号

2016年5月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

民生破壊、独裁復活、南北関係破綻、朴槿恵政権に審判は下された**●与党「セヌリ党」惨敗、第1野党「ともに民主党」圧勝**

第20代韓国国会議員選挙(定数300)が4月13日に実施された。各種世論調査など事前の予想では与党セヌリ党の勝利が確実視されていたが、選挙結果は過半数を大きく下回る122議席で、与党の歴史的な惨敗となった。

100議席割れの可能性大と言われた第1野党のともに民主党は、激戦区の首都圏で122議席中82議席を制するとともに、保守の牙城と言われた慶尚道の大邱・釜山でも躍進するなど123議席を獲得し、セヌリ党を上回り国会第一党の地位を獲得した。

全羅道で圧勝した新党国民の党は、比例区の得票では第1野党のともに民主党を上回り、38議席と大幅に躍進した。

正義党は6議席にとどまり、無所属は11議席(与党系7議席、野党系4議席)だった。



▲第1党の地位を獲得した「ともに民主党」

●野党圧勝の最大の要因は**朴槿恵・セヌリ党政権に対する民衆の怒り**

前回の大統領選挙以来、公然と行われるようになった国家権力を総動員した不正選挙と、政府与党賛美・野党批判の情報を垂れ流すマスコミ、そして極めつけは野党分裂という最悪の条件で迎えた選挙であったにもかかわらず野党が圧勝した最大の要因は、朴槿恵・セヌリ党政権に対する民衆の怒りだ。庶民の生活を破壊し、独裁政治を復活させ、南北関係を破綻させた朴槿恵政権に対する積りに積もった民衆の怒りが爆発したのだ。

野党各党は、今回の勝利の最大の要因が自らの努力の結果ではなく、朴槿恵・セヌリ党政権に対する民衆の審判であったことを忘れてはならない。

●野党にも下された民衆の審判**—新党「国民の党」躍進の意味するもの**

ともに民主党は、野党絶対優位の全羅道のほとんどの地域区で国民の党に惨敗しただけでなく、比例区の全国得票率でも国民の党を下回った。

首都圏など激戦区で大躍進したのは、朴槿恵政権の審判を求める民衆が、セヌリ党候補の当選を何としても阻止するために、当選可能性の高い第1野党候補に投票した結果だ。

既得権に安住して、派閥争いに明け暮れ、失政を重ねる政府与党に対して野党らしい闘いを組織できない、ともに民主党に対しても民衆は審判を下したのだ。

一方、国民の党も自らの躍進の要因を誤認してはならない。セヌリ党に対する民衆の怒りが、ともに民主党勝利の最大の要因であったように、ともに民主党に対する民衆の失望が、国民の党躍進の最大の要因なのだ。

●野党は連帯を強化して、民衆とともに、**闘いの先頭に立たなければならない**

国会において与野党が逆転したとはいえ、大統領制の韓国では政権与党の権限は絶大だ。ともに民主党と国民の党は、手前勝手な選挙結果分析で野党間競争に明け暮れるようなことがあってはならない。セウォル号惨事の真相究明、労働悪法の改正、「慰安婦」合意の見直し、南北対話の再開など、重要課題は目白押しだ。

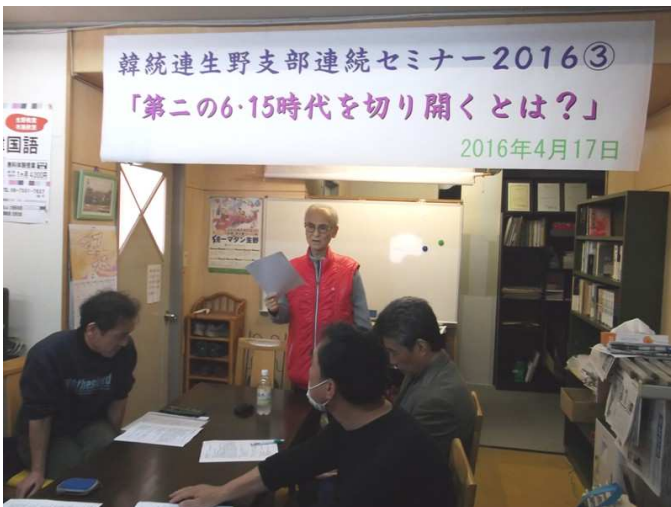
今回の選挙で示された民意を実現するために、野党は連帯を強化し、たえず民衆と闘争現場をともにしながら、政府与党に立ち向かっていかねばならない。(金五)

わが民族同士、力を合わせ 第2の6・15時代を切り開こう！

韓統連生野支部連続セミナー第3回

韓統連生野支部が2月から始めた連続セミナーの最終回として、「韓統連生野支部連続セミナー第3回 第2の6・15時代をきり開くとは？」が4月17日（日）に韓統連生野支部で開かれた。

セミナーでは最初に、九州地方で発生した震災で犠牲になった方々への黙とうが行われた後、金昌秀（キム・チャンス）韓統連生野支部代表委員が「第2の6・15時代をきり開くとは」をテーマに報告を行った。



▲統一運動の歴史などを報告する金昌秀代表委員

金代表は報告を始める前に、4月13日に実施された韓国の総選挙結果について「生野支部連続セミナーの第1回は“朴槿恵・セヌリ党執権の3年間を問う”というテーマだったが、今回の選挙は、まさしく韓国民衆が反統一・反民主的な政策を3年間と続けた朴槿恵・セヌリ党に審判を下した結果だ」と語った。

続いて報告では、1945年の解放直後から現在に至るまでの歴代政権の統一政策と民衆の闘いについて紹介しながら、「朴正熙独裁政権をはじめ過去の独裁政権は統一を語りながらも、真に統一を望む民衆を弾圧していった」と指摘した。

そして「2000年6月に開かれた金大中（キム・デジュン）大統領と金正日（キム・ジョンイル）国防委員長との南北首脳会談で発表された6・15共同宣言は、統一問題をわが民族同士で力を合わせ、自主的に解決していくことに合意し、以降、南北の和解・交流事業が進展した」と述べるとともに、「朴槿恵政権に6・15共同宣言を履行する意思

はなく、逆に南北の軍事緊張を煽っている」とし、最後に「祖国統一は民族の死活問題であり、解放直後から継続する米国の軍事的・政治的支配をはねのけ、民族同士が統一の実現に進むことが第2の6・15時代を切り開くこと」と語った。

報告後は、活発な討論が行われ、セミナーは終了した。

韓青がサムルノリを披露し、 朝鮮半島の平和をアピールする 連帯フェスタ2016

韓統連大阪本部と韓青大阪府本部が実行委員会構成団体となっている「連帯フェスタ2016—輝く未来へ、みんなの笑顔が平和の証—」が4月24日（日）、万博記念公園お祭り広場（吹田市）で開かれ、多くの在日同胞・日本人が参加した。

連帯フェスタでは毎年、多彩な舞台演目が披露され、今年も渡辺千賀子さんによるフォークソング、子ども向けのキャラクターショー、ワタナベフラワーやMINMIによるライブなどが行われ、会場の雰囲気盛り上げた。



▲サムルノリを演奏する韓青大阪・京都のメンバー

そうした中、韓青大阪府本部・京都本部のメンバー合同のサムルノリが披露され、参加者から温かい拍手が送られた。演奏終了後、李俊一（イ・チュンイル）韓青大阪府本部委員長が「今、朝鮮半島では韓米の軍事演習が行われ、軍事緊張が高まっています。私たちは今日参加されている皆さんとともに、朝鮮半島をはじめ日本、東アジアの平和の実現に向けて、これからも頑張ります」とアピールを行

った。

舞台演目の他に連帯フェスタでは、ビール・ホルモン焼き・焼きそば・から揚げ・かき氷などの出店が並ぶとともに、子どもに大人気のフワフワドーム、ストラックアウトなど子どもコーナーが

設けられ盛況だった。また会場では、沖縄の辺野古新基地建設問題などを訴えるパネルが展示され、参加者の目を引くなど、大人も子どもも楽しい一日を過ごした。

〈次代を担う若者たち－韓青大阪本部 活動紹介－〉

アンニョンハシムニカ、韓青大阪本部の李俊一（イ・チュニル）です。すっかり暖かくなりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

韓青大阪本部では、4月3日(日)に恒例の花見を開催しました。場所は今年統一マダン生野の開催場所となっている巽公園(ロート公園)です。いつもなら恒例の焼肉だったのですが、今回は天候がギリギリまで読めなかったのと、女性メンバーから「肉ばかりだと飽きる」という意見を尊重し、オードブルと手作りキムチチゲというメニューにしました。当日は天気は曇っており、4月とはいえ、まだ若干肌寒い天候だったのでキムチチゲが予想外に好評でした。場所も桜の真下のスペースを確保することができ、楽しい一日を過ごすことができました。

翌週の4月9日(土)には地方委員会を開催し、韓青大阪本部の盟員が集まり、昨年度の総括と今年度の方針を論議・決定しました。論議した方針の中で特に大きかったのは、昨年の積み残しの課題であった生野北支部の定期大会を9月25日(日)に開催することを決定することができたことです。去る2月に開催した布施支部の定期大会とともに、全国で最大の同胞密集地である生野地域で支部を再建することは大阪本部のみならず、韓青の全国組織においても大きな飛躍の一歩となります。5ヶ月先ですが、これから定期大会開催に向けて徐々に組織を強化できればと思います。

また6月5日に開催される第23回統一マダン生野に向けての準備も着々と進めています。韓青大阪本部は今年も朝青大阪本部と共に実行委員の一員としてマダンを作っていきますが、今年は統一のメッセージをステージ上で即興で絵を描いて表現する「絵画パフォーマンス」を計画しています。朝青から美術部出身のメンバーの力を借り、韓青は律動などパフォーマンスの部分で演目を盛り上げる、まさに両団体が一体となった出演を準備しています。私たちが在日同胞青年が祖国統一という共通の目的に向かって「ひとつ」になっていく姿を表現することで、統一マダン生野に参加する皆さんに、統一への希望をお届けすることができればと思います。6月5日はぜひ巽公園にお越しください。

5月には11日(水)に生野北支部で、12日(木)に布施支部で春期ウリマル開講式を開催予定です。もしお知り合いの方で、ウリマル(母国語)を習いたいという同胞青年をご存じの方は、ぜひとも韓青大阪本部までご一報頂ければと思います。チャル プタットウリムニダ(よろしくお願い致します)。

在日コリアン青年のための韓国語教室

- ・韓青生野北支部：毎週水曜日 午後8時～ 大阪市生野区桃谷3-13-6
(JR桃谷駅から東へ徒歩10分)
- ・韓青布施支部：毎週木曜日 午後8時～ 東大阪市岸田堂西1-3-8「さらんばん」2F
(近鉄布施駅から岸田堂交差点へ徒歩10分)

※クラスは入門・初級・中級の3クラス。

※料金は両支部ともに月4千円で、期間は半年1期です。

※問合せは、在日韓国青年同盟大阪府本部 TEL06-7501-7627

「さらにつながって」－第23回統一マダン生野の成功を誓う

第23回統一マダン生野実行委員長 金昌範 (キム・チャンボム)

4月24日、私たち第23回統一マダン生野実行委員は、コリアンタウンを中心とした生野区同胞密集地にて、統一マダン生野の宣伝ポスター掲示を店や民家をお願いする活動をしました。大半の方々がポスター掲示を快諾してくださり、またポスター貼りの作業をする私たちに街行く人たちの多くの視線が注がれ、内容や出演者について尋ねる声がありました。さらに数件の店主から「統一したらええのになあ」「いつできんのやろ」という声も漏れ聞こえたことが、強く印象に残りました。

私たちが在日同胞にとって、率直に自己の民族性を表現し育むことは、たやすいことではありませんでした。日本社会に未だ根強く残るわが民族に対する偏見や差別などにその一因を求めることができませんが、より重要なことは、植民地支配からの解放の喜びも束の間、祖国が分断されすでに71

年が過ぎ、多くの同胞が祖国と民族の未来に確信を見出せないことに大きな原因があると思います。そんな同胞の一部から漏れた「統一したらええのになあ」という素朴なつぶやきに、彼らの心の奥底に残る祖国と民族への一縷の希望が「統一」という言葉に凝縮されていると改めて感じました。

統一マダン生野は文字通り「マダン(広場)」です。この地に生きる同胞たちが統一に対する思いを持ち寄り、おおらかに交歓できる場として楽しみ、心豊かにすることで、同胞一人一人の中に統一運動を推し進める気力が育つよう、その契機にしたいと思います。

さらに統一マダン生野は、統一を実現に近づけるための具体的な方法と道筋を共有する場でもあります。すでに南北では2000年の6・15共同宣言で、統一に対する基本的な理念と方法が合意され、2007年の10・4宣言では、より具

体的な統一への道筋が示されています。また、それらは南北海外同胞の圧倒的な歓迎を受けました。統一マダン生野では、それらの意義を改めて共有し、和解・協力・統一の方向を再構築するための意志を集めたいと思います。

一方、南北関係が正常な方向に向かう上で、朝鮮半島の軍事緊張が未だ最も大きな阻害要因として存在しています。私たち実行委員会は今年の統一マダン生野で「停戦協定から平和協定への転換」を重要なテーマとして掲げています。195

3年7月の朝鮮停戦協定は、あくまで戦闘の一時停止を取り決めたものにすぎず、今日まで幾度となく朝鮮半島での不戦を約束するための機会が望まれてきました。今日、米国は頑なに平和協定締結のための話し合いを拒否し、北朝鮮に対する軍事的圧力を強めています。朝鮮戦争の一方の責任当事者である米国が、このテーマと真面目に向き合うならば、朝鮮半島は平和確立の方向へと一気に動き、南北間の正常な関係を阻む大きな障害が取り除かれます。私たちは統一マダン生野を通じ、平和協定締結への世論喚起をしていきたいと思っています。

最後に、23回目を迎える統一マダン生野は、これまで多くの同胞及び日本人の皆さんの支援を得て開催してきましたが、祖国統一の気運を高めるためには、より多くの人々の力が必要です。地域回りやインターネットの活用を通じ、多くの方々と言葉を交わし、心を通わせることで一層の関心と支持を呼びおこし、第23回統一マダン生野がより実りある場となるよう、実行委員一同全力で準備していくことを誓い、皆さんへの感謝とお願いに代えさせていただきます。



▲第23回統一マダン生野 金昌範実行委員長

【コラム】 海路半万里—琉球・朝鮮間の漂着者送還について

琉球から朝鮮までの海路は実に長い。15世紀の朝鮮の高官である申叔舟(シン・スクチュ)が記した「海東諸国紀」によれば、琉球国都(那覇)と朝鮮の釜山間の旅程は5430里(約2134km)。与論島、徳之島、奄美大島、口永良部島の諸島を巡り、九州の沿岸部を伝い、壱岐、対馬へ通じる海路だ。直線距離でも約1000kmになる果てしない道のりだった。

当時の朝鮮にとって琉球はあまりにも遠く、自ら交流を求めようと思えない遥か彼方の国と考えられていた。実際、朝鮮側から琉球に直接使者を派遣した例は極めて少ない。一方、琉球から朝鮮への使節はたびたび記録に見え、最初の通交もまた琉球からの使節派遣がきっかけだった。貿易立国を目指し、成長しつつあった琉球の積極的な姿勢がうかがえる。

両国の外交関係は138

9年(昌王元年)、琉球国中山王の察度の遣使に始まる。高麗王朝の最末期に始まった交流は朝鮮王朝に引き継がれ、その形態を変化させながら1860年代まで続いた。朝鮮王朝時代のほぼ全期間にわたって琉球との関係は継続したといえる。

この間、両国の一貫した懸案は、自国民の送還だった。先の察度の遣使記録を見れば「琉球国中山王察度、玉之を遣わして表を奉り、我が倭賊に虜掠されたる人口を帰し…」と、倭寇によって連れ去られた人々を送還してきたことが分かる。これに対し高麗の昌王は返書に「感喜の情、言をもって尽くし難し」と感謝の言葉を述べている。その後の約半世紀間は、倭寇によって連れ去られた朝鮮人たちの送還が何度か行われた。

もっとも琉球に居た朝鮮人たちが全て国に帰ったのかというと、そうではなかった。1431年(世宗13年)の記録を見ると、風の不順や乗船人数の限界もあり100人以上の人々が帰還できずにいることが記されている。また1453年(端宗元年)の記録では、朝鮮人が60人以上も

琉球に居たが亡くなったとある。おそらく倭寇に拉致され、本国に帰ることなく異国で一生を終えた朝鮮人は多く居たものと思われる。

やがて倭寇の活動が一旦沈静化した後は、今度は海で遭難し、漂着した人々の送還が頻繁に行われるようになった。朝鮮側はこれら帰還した人々に対し事細かな聞き取りを行い、漂流記を作成している。それらの事例を見れば、1479年(成宗10年)の金非衣(キム・ピイ)の漂流記などが興味深い。金非衣一行は済州島から貢納品のミカン



▲「首里城の琉球国王御差床(うさすか)」

を積んで帰る途中に嵐に遭い、2週間の漂流の後に与那国島に流れ着いた。彼らはそれから約2年かけて朝鮮に帰るが、その間、琉球の島々を順番に巡った体験を詳しく記憶し、15世紀の沖縄本島以西の先島に関する貴重な史料を残すことになった。

さて、これらの送還ルートについて若干触れると当初、

送還される朝鮮人は琉球の使節に同行し、九州を経由するルートが取られていた。しかし、16世紀初頭に琉球からの使節派遣がなくなると、中国の北京を経由して送還が行われるようになり、やがて1698年以降は福建→北京→義州のルートに固定された。

朝鮮に漂着した琉球人の送還の多くも中国を経由して帰された。琉球からの漂着者は大半が済州島に着いており、そこから北京→福建を経て送還されていた。こうした琉球・朝鮮間の送還体制は、両国が清へ派遣した外交使節を通じて確立・整備されていった。

14世紀末に始まった琉球・朝鮮間の正式な外交関係は日本の戦乱や、薩摩の琉球支配、中国の明清交代などによって、17世紀半ば以降は途絶えてしまった。しかし、漂着者の送還は1868年の最後の送還まで変わることなく続けられていた。遠く離れた琉球と朝鮮で、このような漂着者の送還体制が整備されていたことは、ひとつ注目すべき事だろう。(好)

◆◆読書紹介◆◆

貧困世代

—社会の監獄に閉じ込められた若者たち—

藤田孝典 著／講談社現代新書／821円

「下流老人」で社会に衝撃を与えた著者が、若者世代の現状を赤裸々に分析して語る「貧困世代」。これは今の若者を語るうえで最良の本である。

「下流老人 一億総老後崩壊の衝撃（朝日新書）」では、団塊世代を中心に誰もが貧困に陥ることの危険性と現状を語った。団塊世代が生活保護以下の生活を淡々と受け入れる状況を多くのマスメディアが取り上げ話題になった本だ。その著者が、若者世代について「貧困世代」と呼び注意を喚起している。

著者は「今の若者たちが、自力ではなく政府・行政による何らかの政策や支援の環境整備がなされない限り、ワーキングプア（働いてもなお貧困状態に置かれる人）の状態から抜け出すことが困難な状態にある」と語る。そして「現代の若者たちは一過性の困難に直面しているばかりでなく、その後も続く生活の様々な困難、貧困を抱え続けてしまっている世代である」と定義づけ、この彼らの世代を「貧困世代（プア・ジェネレーション）」と総称したのである。

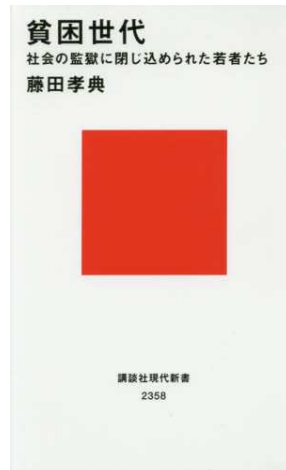
「貧困世代とは貧困であることを一生涯宿命づ

けられた人々」で、おおむね10代から30代を指しており。フランスの哲学者ミシェル・フーコーが言った「一生監獄から出られない囚人たち」世代であるともいえる。

戦後の高度成長期及びバブル経済を知っている世代から言えば「今の若者は根性が足りない」と精神論で誤魔化そうとするが、本当はこの世代の困難な状況を知ることが拒否しているのかもしれない。しかし、このような若者「貧困世代」の増大を放置することは国家の損失である。

著者は、ブラック企業・ブラックバイト・奨学金問題（学費の高騰）・住宅問題等いろんな角度から切り込んでいる。今の年寄り世代を救うのは若いこの世代だということを本当の意味で感じなければ、この国の将来はないであろう。自力でできるのは一部の人たちだけで大多数の若者は今の制度では取り残されるのである。

いろんな問題を考える上で非常に内容の濃い本である。若者世代も下流老人に入っている世代もその間で苦勞している中年世代にも読んでもらいたい。思ったより読みやすい本なので、ぜひ読んでください。（敏）



◆◆行事案内◆◆

| | |
|---|---|
| <p>光州民衆抗争36周年 朴槿恵・セヌリ党惨敗！ 自主・民主・統一運動を前進させよう！ 在日韓国人関西地域集会</p> <p>日時：5月15日（日）午後2時～ 場所：PLP会館 （地下鉄扇町駅4番出口から徒歩3分） 内容：映像資料上映 情勢講演 講師 宋世一 韓統連中央本部副議長 統一マダン生野・神戸について 他</p> <p>参加費：500円 主催：韓統連関西地域協議会 Tel.06-6711-6377</p> | <p>5・23日韓平和連帯講演集会 朝鮮半島の戦争の危機をどう見るか ～問われる日本の選択～</p> <p>日時：5月23日（月）午後6時30分～ 場所：エルおおさか606号室 （京阪・地下鉄天満橋駅下車徒歩7分） 内容：講演「朝鮮半島の戦争の危機をどう見るか」 講師 金昌五 韓統連大阪本部副代表委員 特別報告「戦争法・違憲訴訟の取り組み」 報告 服部良一 日韓平和連帯共同代表</p> <p>資料代：800円 主催：日韓平和連帯 Tel.06-6583-5549</p> |
|---|---|

お知らせ

次号の自主は第23回統一マダン生野を中心に6・7月合併号として発行します。お楽しみに。